

経営分析と特養次年度事業計画及び 中期事業計画の策定

社会福祉法人 相模福祉村

住所／TEL	神奈川県相模原市中央区田名6769番地 / 042-761-7788	
URL／E-mail	http://www.fukushimura.or.jp /	
経営理念	<p>多くの仲間たちに、私たち相模福祉村グループの最終ゴールをイメージしてもらいたいのです。それは、相模福祉村が生まれ育った相模原において、より一層地域に根ざした法人・企業経営を志、「相模福祉村をわが街の文化へ！」にまで高めたい、そう共に願い、邁進していきたいと考えているのです。</p> <p>2015年に向け新・福祉村モデルの基盤徹底として、「サービス（ケア）消費からコト（心・感動の充足）消費へのシフトに舵を取っていきます。</p>	
事業内容	<p>【第1種社会福祉事業】 障害者支援施設（160名） 2カ所 特別養護老人ホーム（120名） 2カ所</p> <p>【第2種社会福祉事業】 障害福祉サービス事業 ・施設入所支援（160名） 2カ所 ・生活介護（335名） 7カ所 ・短期入所（20名） 2カ所 ・自立訓練（18名） 2カ所 ・就労継続支援B型（35名） 3カ所 ・共同生活介護（89名） 4カ所 老人デイサービス（52名） 2カ所 老人短期入所（16名） 2カ所 保育所（50名） 1カ所</p> <p>【公益事業】 障害者日中一時支援事業 居宅介護支援センター 児童グループケア施設</p> <p>【収益事業】 賃貸住宅事業</p>	
収入 (法人全体) 平成23年度決算	①社会福祉事業 ②公益事業 ③収益事業 合計	2,648,287,055円 32,177,396円 20,897,112円 2,701,361,563円
従業員数 (法人全体)	424名（非常勤含む）	

経営力強化と改善に向けた取り組み ～経営の改善に向けた実践対応とポイント

社会福祉法人相模福祉村

佐々木 雄一

徳永 隆志

経営診断

■チェックリスト

社会福祉法人経営に係る各領域についてチェック項目への回答及び集計により法人の現状を把握。

■組織風土診断

経営者、職員各層における自組織や仕事に対する意識を50のチェック項目により把握。経営者と職員各層における意識のギャップを明確化し、組織の改善に際して着手すべき項目を整理。

■財務分析

決算書をもとに各財務指標から、法人の財務面の安全性、収益性等について分析し健全性を把握。

診断結果

■チェックリスト

リスクマネジメント・人事管理がやや達成度が低い。

■組織風土診断

人事・キャリアアップ分野がやや下位に示された。

■財務分析

生産性、収益性、安定性共に中央値以上であった。

経営幹部職員中心のヒヤリングにおける経営課題

1. 良質な人材確保・育成・定着
2. 経営目標達成に向けた組織の再構築
3. 法人一体経営に向けた組織の再構築

優先順位が高いと思われる経営課題

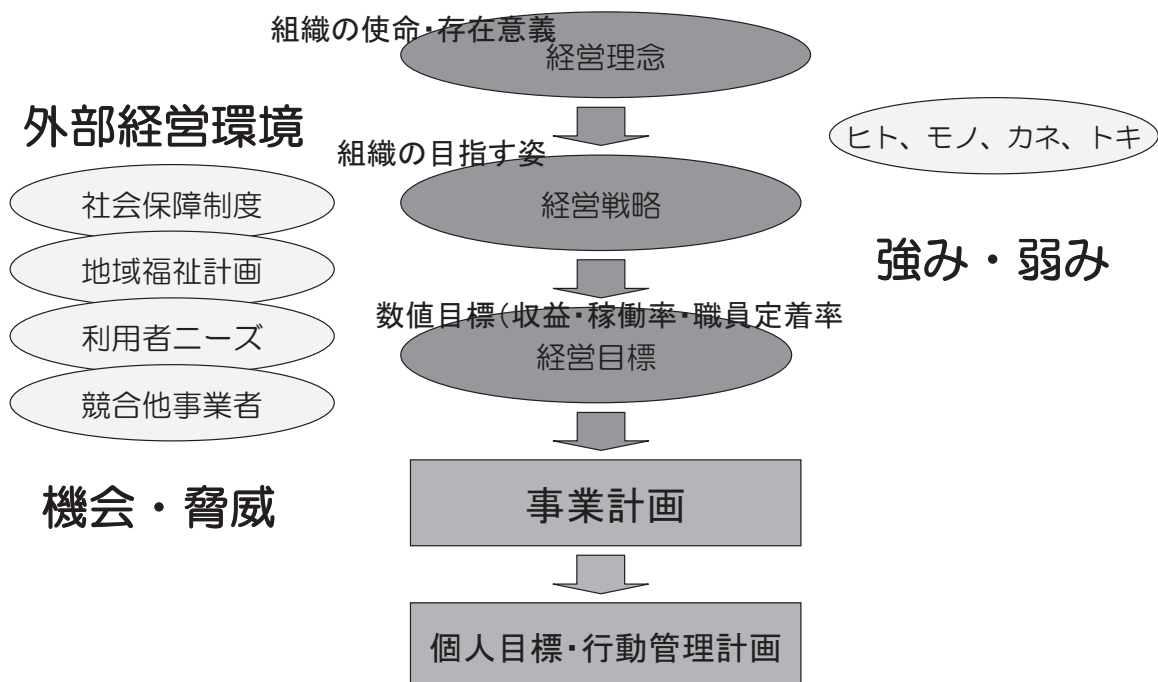
1. 経営理念を実現する経営目標の設定及び浸透

社会福祉事業は理念を実現する経営が重要であり、経営理念を柱として環境分析を行い、経営目標を策定し、それを事業計画に盛り込むという作成プロセスとそれらを職員へ浸透させることが必要

2. 経営目標の達成を目指した人事考課制度の運用

事業計画に盛り込まれた経営目標は全職員が協力して達成するものであり、経営目標のために目標管理制度と人事考課制度の融合を達成する仕組みを構築する

事業計画作成手順



効果

- ◇コンサルが入ることで、職員自身が事業計画を策定し進捗管理を行うきっかけになった
- ◇コンサルの方の意見が第三者の物という事で、職員が納得して聞き入れ、やらなければならないという意識が芽生えた
- ◇職員が施設のSWOT分析を行う事で、意見を出し合いながら問題意識を部門間で共有できた。
- ◇施設・法人を客観視することもでき、経営意識・帰属意識が向上し改善・提案する意識が高まった。
- ◇職員が計画を策定することで、自分たちの事業計画の認識ができ、目標を意識して行動する職員が増えた。
- ◇具体的な数値目標を設定したため、達成率の把握が明確になった。

課題、今後

- ◇コンサル、法人のスケジュール確認が遅れ、事業計画策定が忙しい時期と重なってしまった
- ◇収益を目標にした事業計画の設定が多くなった
- ◇進捗管理を確実にいき、今回の手法を根付かせる
- ◇事業計画作成手法を法人全体に浸透させる